

—第3回 慶応技術士会総会を開催いたしました 2011年6月4日—(掲載:9月19日)

慶応技術士会では、2011年6月4日(土)に、慶應義塾大学矢上校舎14棟創想館にて、第3回慶応技術士会総会を挙行政いたしました。この総会は、年に1回開催される大会であり、昨年1年間の活動、及び予算収支状況の報告、並びに役員幹事の承認などを行い、また総会閉会後に懇親会を開催して会員同士と慶應義塾大学関係者の親睦を深めるものです。



【 初夏の日差しに輝る矢上校舎 一創想館と正面階段一 】

以下に当日の模様を、写真を交え詳細に紹介いたします。



【 初夏の日吉校舎 一校内の木々、彩付く緑葉一 】

当日は、日吉の木々、矢上の緑も色濃くなり始め、それとともに僅かな暑さも感じられ、太陽を我先に欲さんとする青草の香り、そして初夏の気配を、我等が懐かしの学舎に感じさせる陽気となりました。

.....

当日は、学生諸君を含めた慶応技術士会の会員が一同に会し、さらに大学からは、青山理工学部長、理工学部教授陣、当技術士会に関心のある学生諸君が出席いたしました。その総数は約40名となり、大変盛況な大会となりました。



【 写真左:創想館では、大学の通常授業が行われており、行きかう学生諸君の姿も見えました。 】

【 写真中:受付では、総会の資料配布も行いました。写真右:ご出席される理工学部教授お名札 】

※ 広報担当より注:節電のため、校舎共用部は照明を日中、一部 OFF としており、自然光以外の露光が不足していて、一部の写真が暗くなっています。ご了承ください。



【 写真左右:現役の理工学部の学生諸君も総会に参加いたしました。】



【 総会開始直前の様子。徐々に参集し始めました。】

まず、会の初頭、慶応技術士会の河上幹事より関係者一同に対しまして、御出席御礼の挨拶がありました。先の東日本大震災の影響を危惧し、一時は開催を見送ることも検討しましたが、こういう時だからこそ KEIO-OB、OG の結束を強めるべき、との意見があり、当初予定のとおり開催するに至ったとの報告がありました。



【 河上幹事より御出席御礼の挨拶 】

次に、慶応技術士会花谷会長より、総会開会の挨拶がありました。花谷会長からは、今現在、82 歳を過ぎて日夜、技術士業務に励んでいるとの闊達な発言がありました。お話は会長ご本人の学生時代に遡り、藤原工大当時、銀次郎先生の教えを受けたこと、また大学を卒業されてからの、海外での経験談に及びました。

特に、ご自身の経歴の中で、特許（パテント）を多数取得されたことに触れ、若いうちから、技術士たる者、若年より研鑽を積んで、世界をまたにかけ、闊達に活動すべきとの発言がありました。これは、出席した若い学生諸君には、ためになり、かつ大変刺激にな

るお話であり、普段の授業とは異なる、大先輩の今に至る経験談を聞いて、学生諸君ならびに若年層の会員達は、感心して聞き入ることしきりでありました。



【 花谷会長の総会開会の挨拶と、会員諸氏】

次に、慶應義塾大学理工学部長、青山教授より、総会開催に際してご祝辞・ご挨拶がありました。

初頭、第3回総会を盛大に挙行できたことに対して関係各位に御礼の挨拶がありました。また、理工OBのみならず、技術士資格に関心を持った現役の学生も多数参加して、当会は現在、総勢100名近い会員になったことは大変良いことであり、今後も会の活動を精力的に継続していただきたい、との激励がありました。



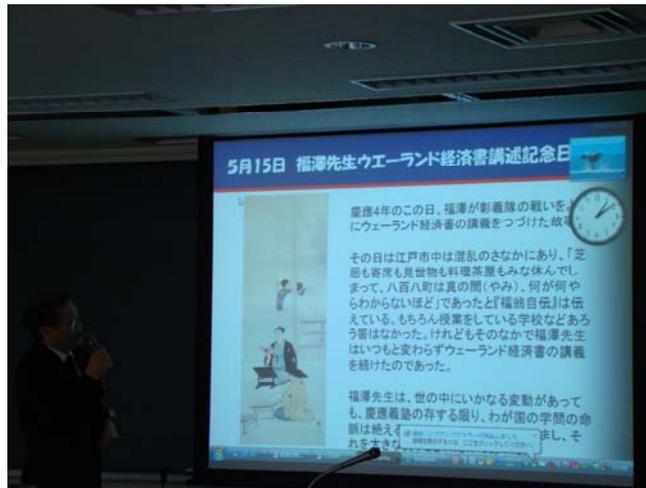
【 慶應義塾大学理工学部長青山教授より御礼の挨拶 】

続いて、話題は、先の震災に及びました。我が慶應義塾大学は、三田・日吉、等々、重文(重要文化財)等に指定されている、大変歴史的な趣のある古い建物が各地に点在する中で、震度5強の地震に耐え、建物の損壊などの物的被害はほとんど無く、また人的被害も無かったことが報告されました。

そして、その直後から、慶應義塾大学は、その結果に自ら甘んじることなく、震災に迅速・冷静に対処したことは、皆様も承知であると思いますし(注)、震災の社会的影響に配慮して、やむなく従来の卒業式を中止し、さらに入学式を5月初めに延期したことなど、ホームページに掲載されており、記憶に新しいことと思います、とのご報告がありました。

(注)慶応技術士会 広報担当より、以下、補足追記します。

- ・3月11日の震災当日から翌12日にかけて、慶應義塾大学は、港区の三田校舎を首都圏に勤務していた帰宅困難者に、一時待避所として、無料開放した。
- ・震災以降、慶應義塾大学は、日本赤十字社医療団に緊急医療支援チームを編成して派遣即応した。



【 福澤先生がなされたウエーランド経済書の講義の御紹介 】

さらに、青山理工学部長は、かつての福澤先生がなされたウエーランド経済書の講義に触れ、大学は社会の規範であり、社会が混乱・混迷したときも、強固、堅牢でなければならず、秩序を保たねばならない、とのお話をされました。

福澤先生のウエーランド経済書の講義：慶應4年(西暦 1868 年)5月15日、上野の彰義隊の戦争のときに、江戸市中は混乱し、芝居も寄席も見世物も料理茶屋もみな休んでしまい、八百八町は真の間、何が何やらわからないほどでした。このとき、福澤先生は、フランシス・ウエーランドの The Elements of Political Economy という経済書を講義しておりました。それはいつもと変わらず、福澤先生は、世の中にいかなる変動があっても、慶應義塾の存する限り、わが国の学問の命脈は絶えることはないのだと塾生を励まし、それを大きな誇りとされたのであります。

(引用：慶應義塾大学ホームページ、三田論評 2011 年 8・9 月号)

最後に、現在の理工学部の教育・研究体制の紹介があり、慶應義塾大学の鶴岡タウンキャンパス、新川崎タウンキャンパスなどで、産学連携、知的財産戦略推進などの活動が積極的に行われているとのご報告があり、詳細は後段にご講演する大西先生より研究の一端のご紹介があるとお話がありました。

~~~~~

続いて、慶応技術士会の関矢事務局長より、昨年一年間の活動報告、収支状況の報告があり、今年一年間の役員・幹事構成、及び予算案承認の議案提出があり、可決されました。

慶応技術士会の規模、特に会員数については、現在、会員が 97 名になり、若い方々、現役学生の方々も増加してきていることが報告され、理工同窓会誌、慶応技術士会ホームページでの定期的な情報発信による広報活動もあって、活動は活発、かつ継続して行われている、との報告がありました。(広報より注：6月30日時点の会員名簿によると、会員数は103名に達しました。このうち、技術士補登録された方は5名おります。一次試験合格者、JABEE 認定者の方(いわゆる修習技術者)を合わせると、三者合計で18名になります。)



【 関矢事務局長より、昨年一年間の活動報告・収支状況の報告等 】

続いて、第3回総会の記念講演が、理工学部大西教授、および慶応技術士会石井会員よりありました。その内容を、ごく一部紹介いたします。

大西教授は、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科の教授であります。当日は、「遠隔触覚伝送技術が開く未来の夢」という題目でご講演いただきました。海外からの留学生が2名、本ご講演の聴講に来ており、学生の関心の高さを伺わせました。

ハプティクス（触覚）の現状と将来について、これまでと現状のご研究内容について、ご講演していただき、変位と加速度の本質的な研究、その伝送（至近距離間と遠隔距離間）の知見、それを用いた医学への応用（遠隔鉗子[かんし]）をご紹介いただきました。事例として、鶴岡タウンキャンパスへ向けて、ロボットによる遠隔操作で「力」を伝える実験を、先に紹介があった新川崎タウンキャンパスにて行った事例をご解説いただきました。ハプティクスは、医学から農業への展開構想もあり、豊富な医学的見地、触覚の重要性、名医が、経験的に触診（中指の先端で触れること）で、肝硬変がわかることなどをお話いただき、物理現象への探究心、発想の転換について触れ、医学と工学の応用を垣間見たご講演内容でありました。



【理工学部大西教授の記念御講演。写真左・右下:それぞれ、鉗子、触診の説明をする大西教授】

石井会員（技術士：機械 1962 年卒）は、元(株)I H I (旧社名：石川島播磨重工業(株))の技監であります。当日は、「環境・エネルギー問題の本質－福島原子力発電所の震災とその影響－」という題目でご講演いただきました。

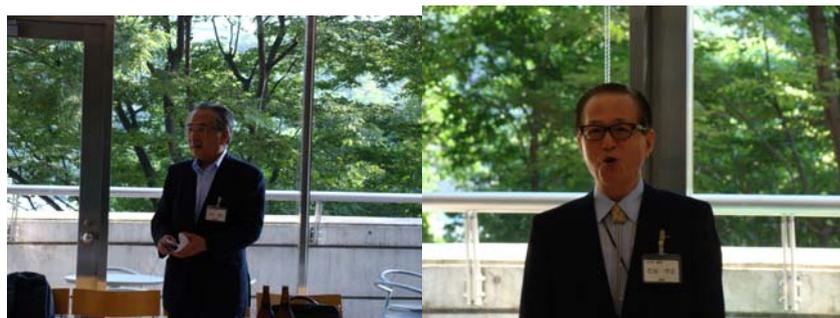
ご自身がかつて、原子力発電の関連業務に従事されていたご経験から、安全管理の徹底についてご講演いただきました。また、放射線・放射能について、何が危険で何が安全なのか、について放射線防護の基準の観点からお話いただきました。また、発展的内容として、世界各国の原子炉開発の現状、化石燃料に依存することによって生じる地球環境問題とエネルギー問題、それによって生じる地球温暖化、今の日本のエネルギーの自活(生産)状況、エネルギー依存(輸入)状況について、各種事例を交えながら、お話いただきました。



【 エネルギー・環境問題・原子力発電について講演する石井会員。写真右：熱心に聞き入る参加者 】

続いて、矢上校舎 1 階のラウンジに設けた懇親会場に場を移し、総会を無事に開催できたことを、関係者一同で祝いつつ、親睦を深めました。その様子を引き続きご報告します。

まず、水出幹事の司会により懇親会が始まりました。会の初頭、花谷会長より、無事に総会を開催・終了できたことに対して御礼の挨拶がありました。



【 水出幹事の司会と、花谷会長より御礼の挨拶 】

続いて、水出司会より、花谷会長からの、かつて勤務されていた海外で入手された古酒 ナポレオン、及び、震災の後に、仕事にて福島県を訪れた当会会員より、そのときに購入した手焼き煎餅の土産差し入れがあり、各々紹介され、懇親会のテーブルに添えることになりました。



【 水出幹事司会による差し入れの紹介 古酒と煎餅】

大西教授の乾杯の音頭で懇親会が始まり、会員同士、関係者各位の交流を深め合い、また旧交を温めました。



【写真左・中：大西教授による乾杯のご挨拶】

【写真右：青山理工学部長と関矢事務局長の御名刺交換の様子】

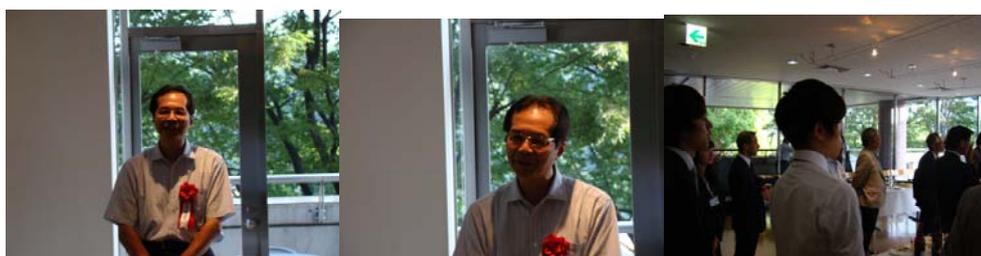


【懇親会開始の様子】

会の中ほど、理工学部田中教授より、ご挨拶がありました。

田中教授からは、特に学生諸君の本日の総会への参加に触れ、今後も、総会等のイベントは、矢上で開催すれば、学生諸君は普段の出入りがあるので、現役の学生も来やすいの

ではないか、とのご発言がありました。また、矢上で開催すれば、学生諸君にとっては、普段居ることが多く、日常を過ごす研究室のあるキャンパスなので、技術士資格の宣伝・広報活動にもなる、とのご意見もありました。本日(6月4日の土曜日)は、学内の他のイベントと重なってしまったものの、学生の関心もあり、本会の出席状況は良いのでは、とのお話でした。



#### 【 田中教授によるご挨拶と、熱心に聞き入る学生諸君 】

会もたけなわ、懇親会の中盤に、7名の現役学生から、一人ひとり自己紹介がありました。今の学生生活、今後の予定(勉強、留学、進学、就職、等々)、夢中になっていること(彼ら風に言うと、いま“はまっている”こと)など、一人ひとり、大きな声で発表していただきました。

やはり、理工系の学生らしく、男女とも、修士論文作成などの研究・勉学に時間を要し、夜遅くなることなどが、大変であるとの話もあり、私(広報担当)も、製図とデザインに明け暮れた学生当時を、ふと思い出す瞬間でありました。一方、海外、とりわけ、仕事先として海外を舞台にすること、に関心のある学生が多く、時代をして、早くから国際感覚を醸成しつつある学生が多いのには驚きました。

年齢が5回りほども違う、80歳を優に超えた大先輩諸氏が居並ぶ中で、もの怖じせず、ハキハキと、若き血を躍動させて受け答えする様子は、かつて学生であった私から、慶應の未来を感じずにはおられず、見ていて大変嬉しくなり、また頼もしいものでもありました。



#### 【 懇親会中盤の様子 】

会の途中からは、土曜日ということもあり、偶然にも現役学生達のピアノ部の部員達の定期練習があって、ラウンジに常設されているグランドピアノからは、ショパンやベートベンなどに代表されるクラシックピアノの調べが、鮮やかな技巧とともに披露され、会に優雅な雰囲気を添えました。



【写真左: 矢上校舎ラウンジのグランドピアノ】

【写真右: 初夏といえども、矢上の日は暮れ始め、会もおしせまってきました。】

~~~~~  
会の後半、青山理工学部長より、現在の慶大理工学部の、特に教育施設の現状についてお話がありました。

KEIO というと、第一に三田の荘厳なイメージがあり、三田の華麗な建築物は誰でも知っている。第二に、並木銀杏、陸上競技場等を含めて、広大な敷地を持つ日吉校舎も皆、知っているが、矢上は、というと矢上校舎というのがあるのか、というイメージが一般の方々には少なからずある。中には、まったく矢上を知らない、という方もいる。

そのような中で、三田、日吉に続き、矢上にも施設拡充の気運が高まってきている。予算が付き始めて、準備していたところ、先の震災があり、今後の予算運営、整備スケジュールなどに与えるその影響は大きい、とのお話でした。

今後も慶応技術士会の発展を願って、OB 殿のますますのご活躍を願いつつ、今後も産学連携を密にして、慶応理工への、OB 殿のご支援を承りたい、とお話されたところで、ご自身が学ばれた当時の学舎（まなびや）について話題が移りました。校舎というと、教授ご自身が、小金井の一期生ということで、その当時の教授、校舎、学生生活などの話に皆、花が咲きました。技術士会にも、小金井を知る者は多数おり、当時の木造校舎を懐かしむ声が次々に聞かれました。



【青山理工学部長より現在の慶大理工学部の現状についてのお話と小金井校舎の談義】

ひとしきり、様々な懐かしい話を会員と共有して、懐古一喫、思いを馳せた後は、青山理工学部長の締めとして、「我等が慶應義塾大学も、これから、震災という困難に立ち向かわなければならぬ、とともに時代を追いかけて、発展し続け、(大学界、産業界において)堅牢・強固な地盤をつくること、即ちこれが、微力ながら復興の足がかりにもなる。」との力強い発言があり、皆、強く賛同いたしました。



【青山理工学部長による締めのご挨拶】

最後に、懇親会閉会の挨拶が、小泉会員よりありました。

慶応技術士会は、今後とも、技術士会総会、理工学部特別授業への参画、技術士対話会、全体会議、等々、さまざまな活動で、母校慶應義塾大学と、慶応技術士会との連携を密にしていきたい、との挨拶があり、これをもって、名残惜しくも懇親会は盛況のうちに閉会となりました。



【小泉会員より、懇親会閉会の挨拶】

一原文・記事作成：慶応技術士会広報(HP：ホームページ)担当

※内容・文章・画像の無断複写、転載を禁ず。